1 はじめに

本校は、学校教育目標「生きる力を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成」を掲げ、 生徒の実態に応じた課題解決のために、学力の向上に重点を置き、「思考力・判断力・表 現力を高める授業づくりの研究~生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりを通して~」 を研究テーマとして、学校全体で研修を推進している。

NIE教育実践指定を受けたことを活かして, 思考力・判断力・表現力を高めるために, 昨年度の取組を継続して新聞活用に取り組んだ。

2 実践計画

- (1) 各教科における授業での新聞活用
 - ・各教科における新聞記事を教材とした授業実践に取り組む。
 - ・新聞記事を活用し、生徒が自ら考え活動する時間や内容の工夫に取り組む。
- (2) 新聞コーナーの活用
 - ・各学級、図書室等に新聞コーナー
- (3) 朝読書での新聞記事活用
 - ・朝読書の時間に新聞記事やコラム等を読む期間を設け、感想を記入する。
- (4) 朝,帰りの学活等での新聞記事発表
 - ・朝、帰りの学活等で、新聞記事を活用して、1分間スピーチ、発表等を行う。
- (5) 掲示板の充実
 - ・各教科、各学年の掲示板等に新聞記事を積極的に掲示する。
 - ・生徒玄関にNIEコーナー
- (6) 学校行事,総合的な学習の時間等における新聞づくり
 - ・学習のまとめを行う際に、新聞形式を取り入れ、掲示をする。
 - ・新聞作成指導の依頼を行う。
- (7) 新聞社への投稿
 - ・南日本新聞(「若い目」)等への積極的な投稿を国語科,担任,教頭等が行う。
- (8) 全校朝会, 学年朝会等における講話での新聞記事活用
 - ・全校朝会、学年朝会時に新聞記事を積極的に活用した講話を行う。
- (9) 学校だより、学級通信等におけるNIE教育実践の紹介

2 実践内容

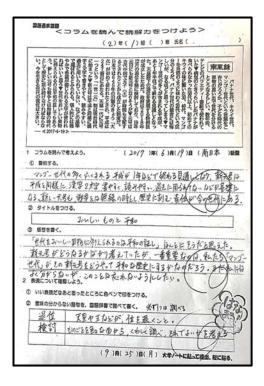
(1) 各教科における授業での新聞活用

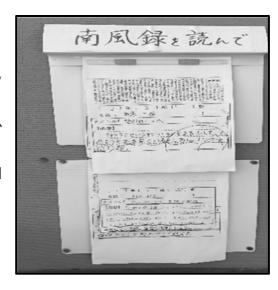
各教科における新聞記事を教材とした授業実践や新聞記事を活用し、生徒自ら考え 活動する時間や内容の工夫。

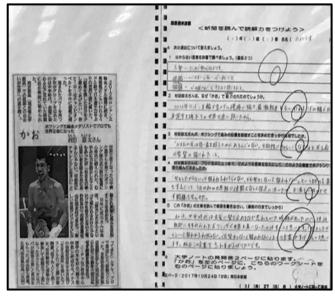
<国語科>

全学年, 読解力をつけさせるために, 新聞のコラムを読んで考える週末課題に取り組むとともに, 南風録にタイトルをつける課題にも取り組んだ。

また、本年度は、2年生が単元「いにしえの心を訪ねる」の中で、昔の人の見方や考え方に触れ、古典に親しむため、平家物語を読んで、「平家新聞」の作成に取り組んだ。







(2) 新聞コーナーの設置

昨年度から9月から12月までの期間に、生徒の新聞への興味・関心を高めるために、自由に各新聞社の記事を閲覧し比較することができるように、生徒玄関に新聞コーナーを設置した。

また、生徒の原稿が掲載された「若い目」の掲示やNIEに関する新聞記事等も掲示した。



(3) 朝,帰りの学活等での新聞記事発表

各学級,朝,帰りの学活等で,新聞記事の紹介や今日のニュースの紹介等を行い,意 見や感想をまとめる活動や発表の活動に取り組んだ。生徒は,人の前で自分の考えや感

想を述べることで、自信をもって発表できるようになってきた。





(4) 掲示板の充実

各教科、各学年の掲示板等に新聞記事を積極的な掲示を行った。その中で社会科は時

事問題を中心に設営をするとともに, 簡単な問題用紙も作成し,常に活用で きるような工夫をした。





(5) 学校行事、総合的な学習の時間等における新聞づくり

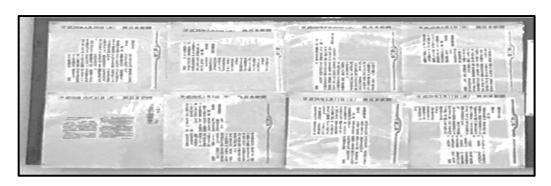
職業調べ、高校調べ、福祉体験学習、職場体験学習等のまとめ として、新聞を参考にしたものを作成して掲示して活用した。 また、生徒会新聞作成においても新聞を参考にしたがら、見や

また、生徒会新聞作成においても新聞を参考にしながら、見やすい分かりやい紙面になるように心がけた。



(6) 新聞社への投稿

南日本新聞(「若い目」)等への積極的な投稿を国語科,担任が生徒への投稿を勧めた。 投稿が掲載されることは生徒の大きな励みになっている。



(7) 全校朝会, 学年朝会等における講話での新聞記事活用

全校朝会, 学年朝会の際に, 時期や学校行事に合わせた新聞記事を積極的に活用した 講話を行っている。

(8) 学校だより、学級通信等におけるNIE教育実践の紹介

学校だよりや学級通信等を通して,随時NIE 教育実践取り組みを紹介し,保護者,地域の 方々への啓発を図った。



3 成果と課題

- ・ NIE教育実践校として指定を受け、昨年度を踏まえて継続的に新聞活用を意識した 活動を行うことができた。
- ・ 新聞活用を意識した取組により生徒の思考力・判断力・表現力を向上させることにつ ながった。
- ・ 各教師の実践例などの紹介等の情報交換を図るための時間の確保が必要であった。
- NIE教育について,教育課程や研修等の位置づけを明確にする必要があった。